

46 とうげんいんもくぞうじぞうほさつぎぞう
桃源院木造地藏菩薩坐像



指 定 市有形文化財 昭和49年12月 1 日
所在地 鳴 瀬
所有者 桃 源 院



円頂・跏趺座（足を組んで座る）の地藏坐像で、顔の前面と胸部を同木で彫った鎌倉通形の木寄せ法を用いており、玉眼をはめこみ、両頬が締って、鎌倉風をよく表している。鎌倉末期ないし室町初期の制作と推定されているが、台座は江戸時代中期の補作とみられる。

作風は、材厚く、衣紋の刀法が深く、小像に似合わぬ大きめの衣紋を随所にたたんで特色がある。注目すべき点はこの小坐像に等身大の仏像に用いる大柄な衣紋が使われ、また背面納衣の文様に切金の跡が認められることで、刀法の強い善光寺妙海風の作風を示し、地方作研究の重要な資料である。胎内に紙様の納入品があるようである。

なお右膝頭と両手先に欠損がある。

法量は、像高33cm、頂～顎 8 cm、面幅 8 cm、面奥 9 cm、臂張り23cm、膝張り28cm、膝高 7 cm、膝奥21cmである。